



理想の光明

(りそうのひかり)



学年主任より



「百聞は一見に如かず」～対面し、見て、聴いて、触れてはじめて～

学年主任 渡部正一

半年間、何としても修学旅行を実現させたい、そればかり考えていました。全国的な感染者の減少もあり、安高初めて四国。実施に向けてお世話になった全ての方々に心から感謝いたします。旅行中の生徒諸君の表情、本当に楽しそうでした。学びの多い忘れられない旅となりました。

二本柱のもう一本、大学入試。主役は君たち。136期生ももうすぐ3年生。世間では年が明ければ「3年生0学期」などと言うこともある。ここからが険しい道だ。

要点は2つ。まず「自主自律」。例えば英語。課題を出さなくする。敢えてそうする。なぜか。受動的な勉強では最後伸びないから。教員の経験値として言えるのは、与えられた課題をこなすような勉強では、質量共に厳しい入試問題に太刀打ちできない、ということ。それは明白。周囲も心配するくらいガムシャラに勉強しよう。自分から。

2つ目。受験は「団体戦」。一人ひとりの自覚が集団を高め、真剣に学習に取り組む。雰囲気が高くなり、結果的に自分にもプラスの効果がある。実質あと1年と少し、ご家庭と学校でがっちりスクラムを組み、頑張りましょう。

クラス紹介

今号は、元気いっぱい3組の紹介です!!

☆☆ 2年3組 ☆☆

「漢（おとこ）小林・大先生と 愉快的仲間達」

皆さん、こんにちは、いや、おはようございます。こんばんは？ 時間が変わると挨拶が変わるのはどの言語にも共通するのかなあと最近よく考えています。申し遅れましたが、僕は影山了将です。生徒番号は2306。好きな食べ物は大学いもです。早速ですが、僕が所属する2年3組の紹介をしたいと思います。

安積高校2年3組を率いるのは、熱血漢、小林幸大・大先生です。先生は、持ち前の明るさ、熱さ、声のでかさで、いつも僕達を導いてくださいます。そのおかげで僕達は楽しい学校生活を送れています。そんな3組の最大の特徴は、とにかく元気なところ。男子も女子もみな明るく、笑いが絶えません。体育祭で学年優勝するほど元気なのです。また、みんな勉強も頑張っていて、文武両道もできています。それに、個性的で面白い人がたくさんいます。誰と話しても、とても面白いです。金子みすゞ先生が残した「みんなながって、みんないい」という言葉を実感します。3組の仲間達と共に生きることができて良かったです。みんなとの日々は一生忘れることはない、とたぶん神に誓えます。

(2年3組 影山了将)

ミニ体育祭

12月14日（火）のLHRの時間は、2学年によるクラス対抗ミニ体育祭を実施しました。2年生の生徒会役員や体育祭実行委員会が中心となり、企画運営をしてくれました。

修学旅行の疲れも残っていたはずですが、バレー、バスケ、サッカー、ソフトの各種目とも、元気にプレイし応援する姿が見られました。各種目の優勝はどのクラスに?? 総合優勝は一体何組でしょう?? 熱戦の続きは年明けに行います。お楽しみに!!



136期修学旅行

12月4日（土）～7日（火）、3泊4日の四国への修学旅行は、天候にも恵まれ、楽しく思い出深い素晴らしい旅となりました。

無事に実施することができ、保護者の皆様の御理解と御協力に改めて深く感謝申し上げます。各クラスの修学旅行委員会を中心に、充実した旅行にしようとする懸命な生徒達の自主的、意欲的な姿が見られました。また、旅行中は、クラス単位での活動が多く、クラスの絆が深まり、修学旅行後の各教室には、まとまったとてもよい雰囲気を感じます。

「二項対立」

修学旅行実行委員長

2年7組 吉田周平

修学旅行実行委員長になり、実行委員長あいさつ、PTAだより用の感想、クラス別研修のまとめ等々、この短期間で作家並みに文章を書いてきたので、正直もう書くネタがありません。

そこで、学年通信では、今回の修学旅行を、僕なりに「悲しみ」と「喜び」の二項対立でまとめてみようと思います。まず、「悲しみ」とは、エンジェルロードで充実している人達を見て傷ついた僕の気持ちです。しかし、瀬戸内海のような広い心で許してあげたいと思います。また、「喜び」とは、この修学旅行が最高に楽しかったということです。保護者の皆様、団長である教頭先生を始めとする先生方、添乗員の方々、私達136期生の修学旅行を支えてくださった全ての方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。

この文章で教室がシラけませんように。どうか、笑ってやってください。最高の思い出を大切に、受験に向けて気持ちを切り替え、頑張っていきましょう!!



私と『四国』

前号に引き続き、2学年の先生に、「私と『四国』」というテーマでエッセイを寄稿していただきました。今号は、副担任の阿部健太郎。

「私の旅日記 8章 四国編」

2学年副担任 阿部健太郎

【第2話までのあらすじ】

大学生の間に日本47都道府県制覇をするという目標達成のため、次に企画したのが大学3年になる前の四国一周の旅である。2月下旬、羽田空港から松山空港に飛び、松山市内で路面電車や道後温泉を味わった後、四国周遊切符を使っての旅を始めた。普段の青春18切符を使った各駅停車の旅ではなく、特急に乗ることもできる優雅な旅。夕方から内子線ルートで中央構造線を越え大洲、八幡浜、そして宇和島駅到着はすっかり日も落ちた頃であった。

第3話「食生活」

大学生の時の旅は、自然地理的——特に海岸地形を見ながら、とにかく多くの場所を訪れることに重きを置いた貧乏旅行だった。せっかくの愛媛だということに、現地の食をたらふく味わおうという発想はなかった。だから、一六タルトの存在すら知らなかった。それでも宇和島では、宇和海の刺身を食べようと思い、営業終了間際のスーパーの割引セールでアジの刺身を買った。翌日の朝は始発電車で出発する予定なので、カップ麺と一緒にホテルで食べて過ごすことにした。ところが、醤油とワサビをもらい忘れていた。

大学生になる前、東京神田のラーメン屋に一人で入ったことがある。出てきたラーメンを「味薄いな。」と思いながら食べきった直後、店主から「…多分醤油を入れてなかったはず。ごめん。」と言われた。あの時の感覚はよく覚えていて、負の感情は一切なく、母親の薄い味付けに慣れていたのでこそ醤油なしラーメンも食べられたのだと。もっとも、そんな感謝をされることは母親の本望ではないと思うが。

と、そんな記憶があったので、アジの刺身をそのまま食べてみた。だが、食べられるものではなかった。ラーメンは麺の塩味が何とかなったが、切り身が海の中を泳いでいるわけではないから当然ではあるが、味気がなさすぎる。旅初日の疲れもあり、いつの間にか寝てしまっていた。

気が付くと6時少し前、まずい! 6時台の始発列車に乗り高知を目指すのに…。準備を急ぎつつ、食べていなかったカップ麺を飲み込むように食べ、全速力でホテルから始発列車に駆け込んだ。ほっとしたのもつかの間、車内の状況に愕然とする。トイレがない車両だったのである。ここから悪夢の時間が始まるのであった…。【第4話「粋な計らい」に続く。】

☆今後の予定☆

- 12月27日（月）～28日（火）安積セミナー
- 1月 6日（木）冬季休業後全校集会
賞状伝達式、大掃除
第2回実力テスト（～7日）
- 14日（金）進研模試（～15日）
- 20日（木）坪倉ゼミ
- 22日（土）紫正会